

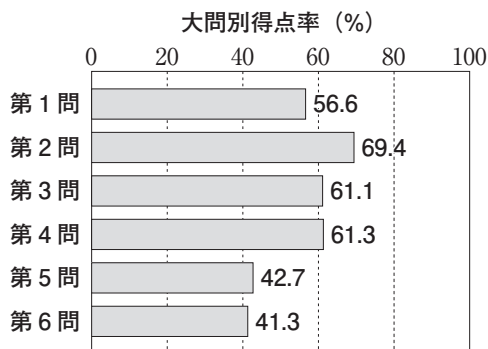
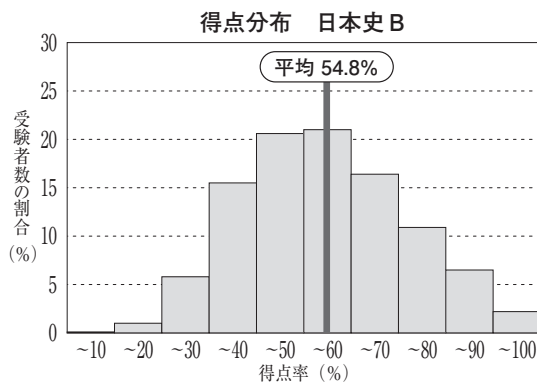
# 日本史B

さあ！ 折り返し、「気合い」を入れて学習に集中！

## I. 全体講評

暑い「夏」が過ぎ、いよいよ受験生にとって正念場となる後半戦がスタートする。夢を達成した自分の姿を鮮明にイメージしながらこれからも努力を継続してほしい。

第4回8月センター試験本番レベル模試の平均点は54.8点と前回(6月)のセンター試験本番レベル模試の平均点(47.6点)を約7点上回る結果となった。この夏の成果を十二分に発揮した結果であったと言えるだろう。6割の得点率を越えた大問は第2問(69.4%)、第3問(61.1%)、第4問(61.3%)と3題を数えた。この数字は本番直前期の水準といえる。問題後半部でもこの数字を出すことができるかどうか、今後の大きな課題である。さあ、折り返し地点！ これまで以上に夢を実現させるために、「気合い」を入れて学習にあたっていこう。



## II. 大問別分析

### 第1問 教育の歴史

テーマ的な視点で歴史を眺めていく習慣をつけていこう！

古代から戦後までの教育史を取り上げた。第1問は1つのテーマを広く扱う傾向が顕著なだけに、テーマ史的な視点で歴史を眺めていく習慣をつけていこう。

第1問の得点率は56.6%と6割にせまる勢いであった。未習箇所になりがちな近現代の自然科学についても問うた問2で87.3%もの正答率を獲得できたことは、この夏にしっかり近現代史まで学習にあたった証拠であろう。その一方で、古代史を主題とした問4が49.5%、問5が16.3%と、いまひとつの結果に終わった。言うまでもないが、一旦学習が済んだ時代でも、「繰り返し」確認しなければ記憶が薄れてきてしまう。反復学習は高得点確保のための「生命線」であることを指摘したい。

### 第2問 古代の天皇制

時事的な話題に敏感に反応し、関心をもちながら歴史を学んでいこう！

古代の天皇制を中心に出题した。近年、譲位や摂政のあり方をめぐってさかんに議論されている。時事的な話題に敏感に反応し、関心をもちながら歴史を学んでいこう。

第2問の得点率は69.4%と、好結果であった。5割を下回る設問がなかったことから、この時代に関する理解の深さを感じることができた。平安時代の貴族生活・文化を主題とした問6の正答率が81.2%、律令制に関する問3の正答率が73.6%と、しっかり対応できていた。この好調を維持するために、弛まぬ努力を継続してほしい。

### 第3問 中世の女性

重要テーマである女性史は、これを機会に隅々まで点検しておこう！

中世の女性を主題として、社会経済史を中心とし

た問題も出題した。「女性」をテーマとした問題は今後も増加することが予想されるだけに、これを機会に知識に欠落した箇所がないかどうか隅々まで点検してみよう。

第3問の得点率は61.1%と6割は確保できた。問3・問5の正答率がそれぞれ70.2%、82.8%と好調であった一方で、問1・問4は49.5%、45.1%と5割を下回った。とくに問4は正答率が高くなる傾向が強い空欄補充問題であっただけに、得点率の伸びを鈍化させる要因となった。基礎的な問題は絶対に「落とさない」という確実性を身につけていこう。

#### 第4問 近世の社会経済・外交

日本の歴史が世界史とどのように関係しているのかといった視点をもとう！

近世の社会経済史・外交をテーマとした問題だった。とくに地球の規模で、国々を越えて社会や経済がつながりはじめた近世は、グローバルな視野を持ちながら学習をすすめていくことが大切だ。

第4問の得点率は61.3%と第3問と同水準であった。問1は「マカオ」と「マニラ」が混同したのであろうか、正答率は51.8%と伸び悩んだ。さらに、問6では誤答である③を選択した受験者が26.8%にも及んだ。陶器の生産地を見分けることに苦戦していたことがうかがえる。類似した歴史用語に惑わされない、しっかりと知識を習得していこう。

#### 第5問 明治期の建築物

史跡や博物館などを見物することで豊かな歴史的視野を育てていこう！

愛知県の明治村を取り上げ、近代建築などに関する問題を出題した。近隣に史跡や博物館があれば積極的に訪れ、普段とは違う視野から歴史に触れてみよう。

第5問の得点率は42.7%と、第1問～第4問に比べると伸び悩んだ印象だ。5割の正答率を超えたのが問1(51.2%)のみで、その他の設問は3割～4割にとどまった。とくに問2の正答率は31.3%と低調であった。歴史上の人物が活躍した時期と、問われた史実の時期に着目しよう。時期ごとに、何がおきたのか、基礎的な部分を徹底して見直して欲しい。

#### 第6問 松下幸之助とその時代

教科書をベースとした確かな基礎学力をつけよう！

センター本試・日本史Bでは、特定の人物の生涯を題材とした問題が出題されるが、問われていることは教科書に掲載されている内容がしっかり理解できているかどうかである。教科書をベースとした確かな基礎学力をつけていこう。

第6問の得点率は41.3%と大問6題中、最低の数字に終わったが、前回のセンター試験本番レベル模試の第6問の38.7%と比較すれば、成長のあとはみられた。問7・問8の正答率はそれぞれ60.7%、57.7%と健闘した。「やればできる」事は証明されているので、あとはしっかり行動に移していこう。

### Ⅲ. 学習アドバイス

#### ◆視点を変えた学習を遂行する

学習習慣がしっかり身につけている受験生でも、マンネリ化した学習はやや苦痛になってくるだろう。新たな知識を修得する喜びを感じながら机に向かうことは非常に重要であるが、時間をつくって近くの史跡や博物館に足を運び、視点を変えた学習を遂行してみてもどうだろうか。新たな発見は知的好奇心を刺激して、モチベーションの維持に大いに役立つはずだ。教科書や資料集などに掲載されている文化財を直接目にするので、「一種の感動」を味わうことができる。是非とも感動を味わいながら、後半戦も歴史学習に真摯に向き合ってほしい。

一人生はキミ自身が決意し、貫くしかないんだよー  
芸術家 岡本太郎